

25	磯川 桂太郎	問題解決意欲と 3D 脳力 (ちから) を自ら鍛える I
(火)	(解剖学 II)	<p>「主体的に問題を解決する意欲」と「形態の三次元的理解のための脳ちから」を鍛えるために、当講座で扱っている実験動物 X の CT デジタル情報を特別研究の素材データとし、歯とその支持組織の三次元形態を可視化・分析し、その過程で理解し得た見解及び結果を最終的には「X の歯とその支持組織」としてまとめる。担当教員は、知識・技術の解説や伝授は行わず、教材提供、文献資料 (読み物) の示唆、アドバイスなどを行なう。読解や実践を通して考え、説明可能な成果を毎回 (本課題 II 受講学生とも) 討議し、結果の精度や解釈の充実を図る。</p> <p>訪問場所・時間：1 号館 2 階 203 号室・月 12:00～13:00</p>
26	山崎 洋介	人文科学的調査研究法階梯
(火)	(解剖学 II)	<p>学問を文系と理系に分類することがよくある。しかし、経済学[文]に高度な数学・統計学[理]が必要である一方、歯科医学を含む自然科学[理]の研究にも論文執筆のための語学</p>

		<p>(国語) 力, 文献・書籍に関する知識やその調査手法[文]が欠かせない。故に, 研究者個人としては, 学問分野の如何に関わりなく, 文理どちらにも偏ることない総合的な知識を兼ね備えなければならない。現在, 文献をはじめとする研究・文化資料のデジタルアーカイビングが世界中で急速に進行している。それらの活用を中心に, 医学・歯科医学に関する研究背景や歴史を調査し, デジタル・ヒューマニティーズを体験, 実践する。</p> <p>受講者が複数人いる場合には, それぞれに別の研究・調査テーマを与え, 遂行してもらおう。時間外でも思考し, 調査を継続する必要がある。</p> <p>訪問場所・時間: 1号館2階228号室・随時</p>
27	渡瀬 哲郎	歯の形態を学ぶ
(火)	(解剖学Ⅱ)	<p>歯科治療において歯の解剖学的知識は必須です。マクロな形態だけではなく, 微細な構造も咀嚼能力や自浄作用などの様々な口腔機能に関与していると考えられます。文献検索, 顕微鏡などを用いた抜去歯の観察, 及び石膏棒のカービングを通じて歯の形態について学びます。調べたことや気付いたことをまとめ, 発表およびディスカッションする事で歯の様々な構造が持つ機能について検討したいと思います。</p> <p>訪問場所・時間: 1号館2階203号室・随時</p>
28	湯口 眞紀	問題解決意欲と3D脳力(ちから)を自ら鍛えるⅡ
(火)	(解剖学Ⅱ)	<p>「主体的に問題を解決する意欲」と「形態の三次元的理解のための脳ちから」を鍛えるために, 当講座で扱っている実験動物XのCTデジタル情報を特別研究の素材データとし, 歯とその支持組織の三次元形態を可視化・分析し, その過程で理解し得た見解及び結果を最終的には「Yの歯とその支持組織」としてまとめる。担当教員は, 知識・技術の解説や伝授は行わず, 教材提供, 文献資料(読み物)の示唆, アドバイスなどを行なう。読解や実践を通して考え, 説明可能な成果を毎回(本課題Ⅰ受講学生とも)討議し, 結果の精度や解釈の充実を図る。</p> <p>訪問場所・時間: 1号館2階203号室・月～水9:00～17:00</p>